

日本農業新聞

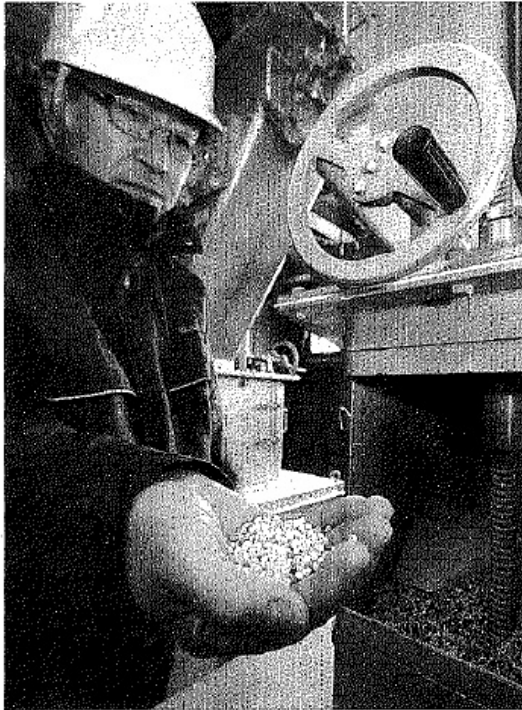
2018年(平成30年)

3 13

火曜日

BB肥料

全農長野



改革 最前線 第2部 生産コスト低減

り、取り組みが活発化している。第2部では、生産コスト低減に向けて全力を挙げている現場を追った。

J Aグループの自己改革の取り組みが全国各地で進んでいる。農家所得向上に向けたグループ内の連携と、創意工夫による

最適成分で省力実現

で製造できるBB肥料のメリットを最大限に生かし、土壌分析やJAの

農指導に基づいたオーダーメイドの肥料を提案する。要望に応じて、これだけ多くの銘柄が供給できるのは、粒状の原料を混ぜて作るBB肥料の特性にある。

集約とは対極

アグリエール長野が製造するBB肥料426銘柄のうち、半分以上の225銘柄が、大規模農家や法人向けのオーダーメイド商品「わたしの肥料」。

オーダーメイドが浸透

分析に基づいて、生産者とJAの営業担当者が相談して設計を決める。「わたしの肥料」の利用が年々増加。16年は土壌分析を約9000件行い、200戸から284戸を受注した。

作業余裕生む

全国有数の高原野菜の産地、JA長野八ヶ岳管内。「わたしの肥料」の利用率が高い地域だ。省力効果をJAが生産者に説明し、積極的に導入を提案する。

川上村でレタスやハクサイなど延べ8社で栽培する新海光さん(54)は「春先の忙しい時期に天候を見ながら3回は畑に入っていたが、この肥料だと1回で済む。余裕が違ふ。もう前の肥料には戻れない」と実感する。管内の生産者は、これまで石灰やリン酸、微量要素など成分ごとに肥料を購入していた。それぞれ施用するか、自家配合していた。成分をまとめ

小ロットの個別銘柄が作りやすく、原料のままアグリエール長野の工場で作成したBB肥料、注文生産で生産者にメリットを生む(長野県安曇野市で)